

防災コミュニケーション協働プラットフォーム メールニュース
2026 年 6 月号

このたびは、防災コミュニケーション協働プラットフォームにご参加いただき、誠にありがとうございます。

防災関係者と保健・医療・福祉分野の専門職・実践者が協力し、住民の安全を守るための実践につなげる「防災コミュニケーション協働プラットフォーム」の運用を開始しております。

「防災コミュニケーション協働プラットフォーム」は、防災・保健・医療・福祉の枠を超えた専門職・実践者の協働基盤です。「災害死ゼロ」に直結する事前防災を、住民が当たり前に実践できる社会の実現を目指しています。

■ 活動内容

本プラットフォームでは、主に以下の活動を予定しています。

【1】定期的な学びと交流、専門職の資質向上

- 定期勉強会（年 2 回程度）
- 研究会・セミナー（年 1 回程度）

定期勉強会では、事前防災に関する実践活動の共有や情報交換を行います。

また、防災関係者や保健・医療・福祉分野の専門職の能力向上に資する研修会・セミナーの開催も予定しています。

■ 今後の予定（次回のセミナーについて）

7 月中の開催で準備しておりますが、【防災と保健の融合に関するセミナー「巨大災害への備えの現在地と今後の展開～防災×保健の連携による事前防災推進に関する国の動き～（仮題）」】を予定しております。

日時：7 月 2 日（木）17:30-18:45

形態：オンライン

想定参加者：全国の保健師、保健・福祉・防災関連課の自治体職員、大学関係者など

プログラム案：

- ① 厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 保健指導室 室長補佐 飯村祥子氏：事前防災を含む関、内閣府、総務省などとの連携の状況 など
- ② 静岡県 危機管理部 危機政策課 課長 若林克茂氏：静岡県内での防災の取り組みや対策推進における課題、保健分野との連携可能性や期待

申し込み方法：<https://forms.office.com/r/FXmW3sudfE>

締切：6 月 29 日（月）

今後も、自治体からの話題提供、ワークショップ、情報交換会の報告などを予定しています。

■ 活動報告（全国保健師長会埼玉県支部）

5月30日（土）に行われた、全国保健師長会埼玉県支部研修会（さいたま市）に、講師およびグループディスカッションのチューターとしてお伺いしました。

<内容>

1. 講演：東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野栗山進一教授による”保健師が事前防災にかかわる意義”
2. グループディスカッション：事前防災を今後展開するうえで「できそうなこと」「難しそうなこと」を、個人レベル（保健師ができること）、組織レベル（所属で必要な仕組み・意識）、連携レベル（消防防災・福祉などとの他部局との連携）の軸でディスカッション

<グループディスカッションの概要・感想>

「訪問の際に家具の転倒防止策実施状況を確認する、避難経路を確認する、といったことはすぐできそう」といった意見が多かった一方、「防災と保健部門が連携する重要性は理解したが、だれが音頭を取るのだろうか?」といった具体的に連携するうえでのハードルがあることも意見で上がっていました。

■ 防災コミュニケーション協働プラットフォーム エッセー（第2回）

「なぜ保健師が事前防災? Vol.2」

東北大学 災害科学国際研究所災害公衆衛生分野 大類 真嗣
https://irides.tohoku.ac.jp/organization/orui_masatsugu.html

「なぜ保健師が事前防災の担い手として期待されているのか?」と思われる方もいらっしゃるかと思います。防災領域は保健師の仕事ではない、と考える方のほうが多いのではないのでしょうか。

しかし、私たちは、保健師こそが「事前防災の担い手」として最適であると考えています。なぜだと思いますか?

1. 地域で保健活動を行い、その中で対象者の家を訪問している

保健師は、普段からアウトリーチ活動を通して対象者の生活の中に入っていける貴重な職種です。保健師の皆さんならお分かりかと思いますが、対象者の家には生活感やその人のライフスタイルなどがまじかで観察できて、非常に多くの情報がありますよね。

事前防災もその一つとして捉えていただき、「家具が倒れてこないか」「地震があってもすぐに逃げられるようになっているか」といったことも察知できる、“生活状況を見る力”が日頃の業務の中で鍛えられているのではないのでしょうか。

2. 住民の行動変容を促すプロフェッショナルである

保健活動の中で、食生活や運動習慣、喫煙、飲酒など、なかなか生活習慣が変わらない住民の方々に
対し、優しく粘り強く関わってこられたのではないのでしょうか。個別支援を続け、さらにはポピュレ
ーションアプローチにつながる事業を継続することで、住民の行動が変容していく経験を数多くされ
ていると思います。

実は、事前防災も住民の行動変容がなかなか進まない領域の一つです。「家具・家電の転倒防止が重要
であることは知っている。しかし、実際にはなかなか行動につながらない」というのが現状です。内閣
府の調査でも、家具の転倒防止対策を実施している世帯は4割にも満たない状況です。

このような膠着した状況を打破するためにも、行動変容を促すことのできるコミュニケーションスキ
ル、保健師が持つ”強み”をいかに発揮できるのではないかと考えています。

3. 多職種連携のハブとなるネットワーク構築力

地域の一人のケースを支援する際にも、関係機関を集めてネットワークを構築し、支援体制を整えな
がら継続的に支援を行っています。このようなネットワーク構築力の高さも、保健師の大きな強みだ
と思います。

この力があれば、これまであまり関わりのなかった防災部門の担当者とも円滑に連携し、事前防災の
取組を展開していくことができるのではないのでしょうか。

このように、「事前防災＝命を守るための行動」と捉え、生活習慣の改善と同じような感覚で、災害が
発生しても命を落とさず、生き延びるための行動をとれるよう、住民の皆さんの行動変容を進めてい
くことが重要です。ぜひ保健師の皆さんのお力をお借りしながら、その取組をさらに広げていければと思
っています。

次回は、「どのように事前防災の行動変容を促していくの？」についてお届けします。皆さまととも
に、地域で実践できる「命を守る事前防災」を広げていきましょう！

■ お知らせ

- ・ 防災コミュニケーション協働プラットフォームのウェブサイトを立ち上げました (<https://web.tohoku.ac.jp/bosai-comm-pf/home.html>)
- ・ 入会登録はこちらの URL から (<https://web.tohoku.ac.jp/bosai-comm-pf/membership.html>)
- ・ 今後も、月1回程度メールニュースを定期的に配信する予定です。